

## 国際大会参加報告書

2011年 8月 14日

社団法人 日本ボディビル連盟  
会長 玉 利 齊 様

報告者 朝 生 照 雄 (印)

大会名	第45回AFBFアジアボディビルディング&フィットネス選手権大会				
開催期間	2011年 7月 25日 ~ 7月 30日				
開催場所	国名:モンゴル		都市名:ウランバートル		
参加国数	23 カ国		参加選手数	87名	
役員		役員名	役職・他		
	団長	吉 田 進	副会長		
	監督	朝 生 照 雄	選手強化委員長		
	コーチ	市 川 櫻	女子委員会委員		
	通訳	なし			
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備 考
					人数が多いため別紙掲載
レポート	別紙掲載				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。

## 2011アジア選手権モンゴル大会

### 成績

選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
津田 宏	東京	男子 60 k g 級	2 位	出場 5 人
須江 正 尋	東京	男子 65 k g 級	3 位	出場 6 人
合 戸 孝 二	静岡	男子 70 k g 級	1 位	出場 5 人
山 崎 岳 志	大阪	男子 70 k g 級	5 位	出場 5 人
片 川 淳	山口	男子 75 k g 級	3 位	出場 6 人
鈴 木 雅	東京	男子 80 k g 級	5 位	出場 6 人
片 川 淳	山口	マスターズ 50 歳	1 位	出場 5 人
清 水 恵 理 子	東京	女子 49 k g 級	2 位	出場 4 人
今 村 直 子	大阪	女子 52 k g 級	1 位	出場 4 人
相 馬 貴 子	長野	女子 52 k g 超級	2 位	出場 2 人
山 下 由 美	宮城	ボディフィットネス 160 c m 超級	3 位	出場 4 人

国別団体戦 第 3 位

### 大会報告

2008年に第4回東アジア選手権を同地で開催しており、全員メダル獲得、特に男子は全て金メダル(4個)という快挙を成し遂げている。

日本にとって大変がゲン良い所での開催となった。

また今回はAFBFアジア選手権となって、第1回の女子の競技も行われ、マスターズにもエントリーすることになった。大会が日本クラス別の翌日に出発ということもあり、参加選手にはアジア選手権に絞って好成績を獲得するよう説明した。

アジア選手権はJOC(日本オリンピック委員会)において常に結果を強化本部より求められており、玉利会長と私は「この選手はメダルをとれるのか？」と回答を求められることがある。アジア競技会や東アジア競技会、ビーチゲームなどJOCより派遣の枠を取るに際しては結果を残しておかないと、参加のチャンスがめぐってきても派遣人数が取れないことになる。したがって、今回は男女とも昨年の日本の1位から3位までのベストメンバーを揃え、大会に臨みました。

結果は上記に記載したとおりですが、津田、須江、の2位3位はそれぞれ極めて優勝に近い順位だったと思います。合戸、片川、今村の1位は文句ないところでしょう。5位の鈴木は中東の上位にはいった選手と比べると腕、背中などさらにバルクアップの必要があり、さらに力強さ、皮膚感の迫力などが不可欠となるであろうと思われた。プロポーズして美しいポーズなど大変素晴らしかったが、重量級の8割り方がバーレン、オマーン、イラン、クエートなどバルクの大きい中東勢が出場する中で勝っていくことは、世界大会で入賞するレベルであり、日本人にとっては軽量級で闘う以上に難しく思われる。

鈴木選手にはこのクラスでの日本の道を開いて行って欲しい。

70kg級で同じく5位に入った山崎選手については、経験不足もあり何処を向いてポーズをとっているのか残念ながら実力が出し切れなかった。良い勉強にはなったと思われ、来年以降このクラスで必ず実力を発揮してくれるでしょう。

日本選手は清水選手、今村選手、片川選手とも素晴らしい仕上がりでポージングと共にたいへん良かったが、3位4位の台湾や香港の選手に比べバルク不足はあきらかで、彼らが仕上げてきた場合は怖いところである。さらにバルクアップに期待したい。

52kg超級の相馬選手はバルクでは国際的にも引けを取ることはないが、仕上がりの調整が不十分で韓国の選手に敗れた。完全に仕上げた相馬選手をぜひ日本選手権で見たいものです。

ボディフィットネス160cm超級に出場した山下選手はベテランらしくエレガントにまた楽しそうにポーズを決めていたが韓国、カザフスタンの選手に比べると上半身の厚さが足りない。もう少し筋量をつけることでさらに上位が望めると思う。

#### ◎ 今大会の全体の講評

- ・今大会はカラーが以前のように何でもありの状況であったがプロタンやドリームタンも用意して前日に女子については市川コーチや女子選手で塗りあい、大会当日は合戸選手などを中心に男子選手も全員で協力したことはたいへん良かった。

- ・私は今回全てのジャッジを行ったので監督の役割は不十分であったかと思うが、その分ベテラン選手の協力があり一定の結果が出せたものと思います。

21全てのカテゴリーのジャッジをやり、自分としても大変いい勉強になった。審査結果についてはあまりおかしい結果はないと感じたが、両隣の他の国のジャッジが話しかけてくるのには多少戸惑い、きつい中で和気藹々あまり緊張せずに出来たのは良かった。アジア選手権では今後も1人はジャッジに入るべきで審査が公平に行われていることを今後も確認していく必要がある。

- ・最後にモンゴル連盟責任者は経験も少なく人数も足りない中で、一人一人の役員が迷い、戸惑いながら一生懸命大会を成功させようと頑張ってくれた。

滞在中3回もホテルを移動したり、競技の進行も不手際や間違いも多く、ファイナルが終わったのは午後11時をまわっていて、確かに私が30年近くアジア選手権を見てきたがワーストの方でしょう。

だからこそ、その国の対応がお粗末だ、なってないと批判をするだけでなく、同じアジアの仲間として足りないところを補い友好を深めることも大事な国際交流だと思えた。

私は長年JOCにおいてオリンピックに際しての派遣における規範の説明を幾度と無く聞かされています。規範は2つあり1番目は勝ってメダルを取ること、2番目は各国との友情、友好を高めることです。数年前までは1番と2番が逆でした。

ボディビル競技の選手がこの事をもっと理解し、大切にしてこそ発展があるものと思う。今後派遣役員選手がさらに国際友好を深め、各国の仲間と長い付き合いをしていけるように望みたい。